

# アメリカザリガニ防除でよみがえった 里山ため池の水生昆虫など貴重な生き物たち

NPO 法人シナイモツゴ郷の会  
佐伯 光広・君島裕介・長谷川政智・高橋清孝

## はじめに

大崎市内のため池では「NPO 法人シナイモツゴ郷の会」によるアメリカザリガニの駆除が行われており、魚類、両生類、甲殻類、昆虫類、貝類等の復元と保全に成果を上げてきました。今回のミニシンポジウムではこれまでの活動についてご紹介します。

## これまでの取り組み

当会では2013年からオオクチバス駆除とともにアメリカザリガニの駆除に取り組んでおり、技術開発に努めてきました。2016年には自動給餌機を搭載した連続捕獲装置（図1）を開発し効果を上げてきましたが、現在はさらに開発を進めて自動給餌機を使用しない簡易型連続捕獲装置（図2）を使用し、効果を上げています。また、小型ザリガニをより効果的に採捕するためのアナゴカゴの改良や誘引餌にこれまで使用してきたドックフードと比較して同等の効果を示した安価な米糠を使用する等、常に効果的で広く普及することを考えたアメリカザリガニの駆除方法の開発に取り組んでいます。



図1 自動給餌機を搭載した連続捕獲装置（2016年開発）



図2 簡易型連続捕獲装置（2019年開発）

### 連続捕獲装置によるアメリカザリガニの捕獲

中規模ため池では 2020 年から簡易型連続捕獲装置を使用した駆除に取り組んでいます。平均捕獲数を図 3 に示しました。2021 年は 2020 年に比べて増加しましたが、2022 年、2023 年とかなり捕獲尾数がかかなり低下しました。今後の駆除の取り組みによりさらなる低下が期待されます。

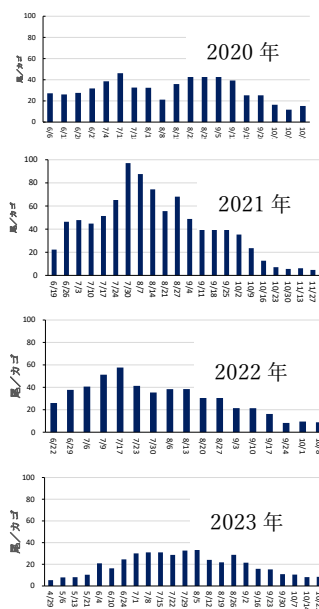


図 3 中規模ため池での連続捕獲装置の平均捕獲数

### 年齢別漁獲尾数の推定

中規模ため池では駆除したアメリカザリガニの頭胸甲長の測定を行っています。その組成から年齢分解を行い、年別漁獲割合を推定しました（表 1）。0 歳の割合が高く、年齢が高くなるにしたがって減少しています。

表 1 中規模ため池の年齢別漁獲割合

年齢	2020年	2021年	2022年	2023年
0	0.77	0.80	0.62	0.68
1	0.13	0.12	0.26	0.19
2	0.08	0.07	0.12	0.10
3+	0.02	0.01	0.01	0.03

### 低密度化の効果

図 4 に小規模ため池における 2016 年～2023 年までの人工水草 1 個当たりのヤゴの採集数と 2016 年～2022 年までの 8 月のアメリカザリガニの平均捕獲数の関係を示しました。アメリカザリガニ捕獲数が低密度化するに伴い、ヤゴの採集数は増加しており駆除の効果が認められます。この他、アメリカザリガニの駆除を行っているため池では、二枚貝（タガイ）、ゼニタナゴ、シナイモツゴ、ニホンアカガエル、ヌカエビ、水生昆虫の数が増加しています。アメリカザリガニの繁殖力は強く、完全駆除は困難ですが、低密度化を図ることで貴重な生き物たちがよみがえっています。今後も低密度化を維持するねばり強い取り組みが必要です。

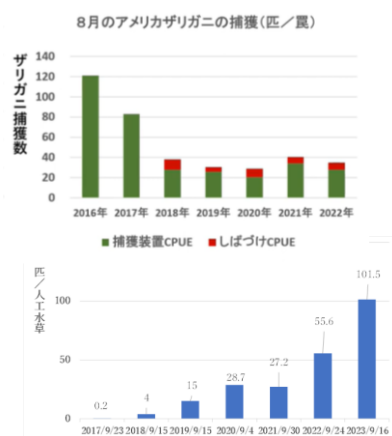


図 4 小規模ため池での人工水草 1 個当たりのヤゴ採集数の推移